栃木県公共事業事前評価　自己評価書

【県土整備部　道路事業】

事業名	快適で安全な道づくり事業
事業箇所	一般県道　鹿沼環状線 千渡北（せんどきた）Ⅱ工区　鹿沼市千渡（せんど） L＝2,100ｍ
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部　道路整備課

Ⅰ　事業の概要

【概要・目的】

概要・目的

- 県道鹿沼環状線は、鹿沼市街地の通過交通を排除する環状機能を有する主要幹線道路であるとともに、鹿沼木工団地と（国）293号を結び、物流や地域経済を支える重要な道路である。しかしながら、千渡地内においては、暫定２車線で供用している状況であり、朝夕の通勤時間帯を中心に渋滞が発生していることから、道路利用者の安全で円滑な通行の確保が課題となっている。
- このため、千渡地内を４車線化することで、安全で円滑な通行を確保するものである。

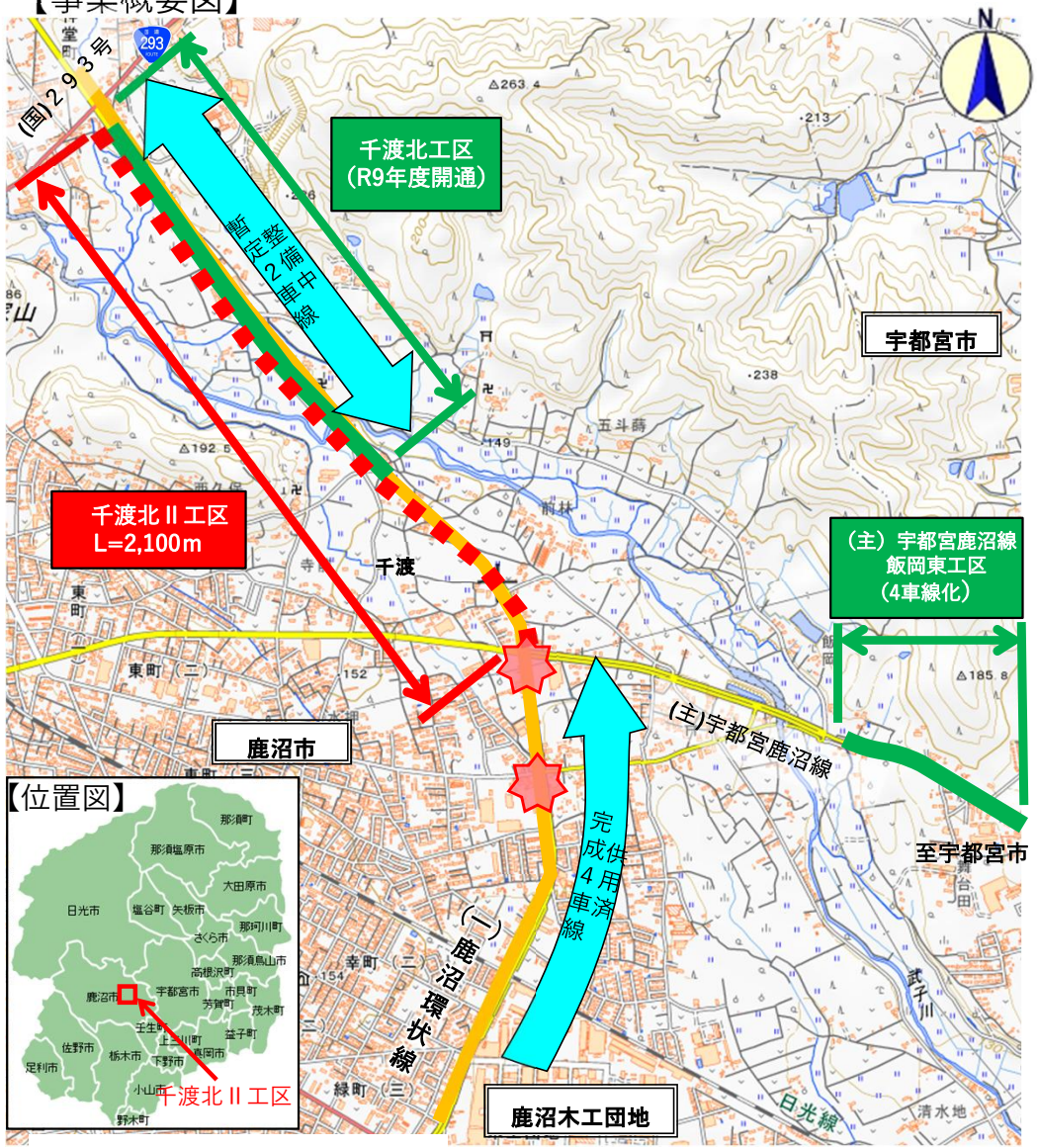
県計画の位置づけ

- とちぎ道づくりプログラム
- 栃木県地域防災計画
- 宇都宮市都市計画区域の整備、開発及び保全の方針並びに粟野都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

他計画・他事業との関連

- 鹿沼市景観計画
- 鹿沼市都市計画マスタープラン

【事業概要図】



凡例

事業箇所	■ ■ ■
(一)鹿沼環状線	▬
事業中	▬
渋滞発生箇所	✸

出典：国土地理院ウェブサイト
(https://maps.gsi.go.jp/)
地理院タイルに事業箇所等を追記して作成

Ⅰ　事業の概要

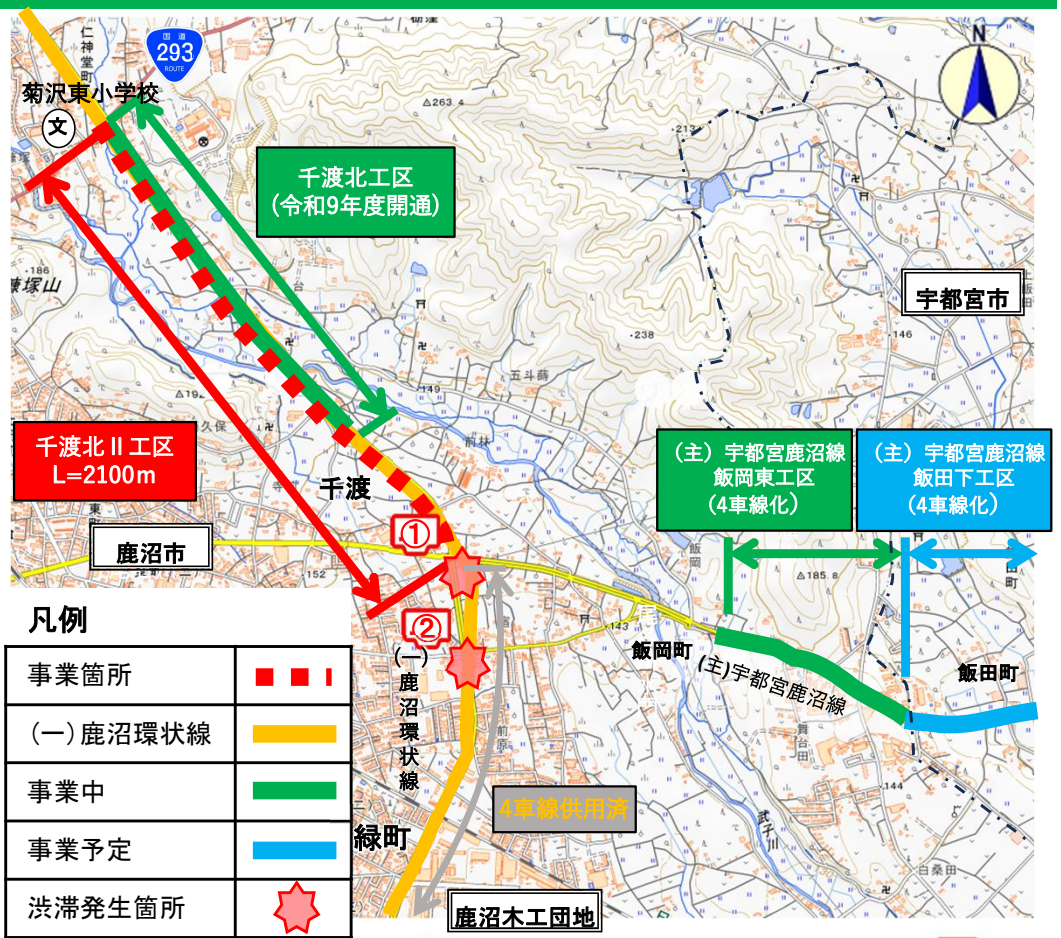
【事業の必要性と効果及び影響】

事業の必要性

- 本路線は、朝夕の通勤時間帯を中心に渋滞が発生していることから、安全で円滑な通行の確保を図る必要がある。
- また、完成４車線で整備中の(主)宇都宮鹿沼線 飯岡東・飯田下工区の供用後は、更なる交通需要の増加が見込まれることから、渋滞の緩和を図る必要がある。
- 加えて、本路線は第３次緊急輸送道路に指定されており、災害時における緊急車両の円滑な通行を確保する必要がある。

事業により予想される効果及び影響

- 千渡地内を４車線化整備することにより、現在４車線供用中の緑町地内からの連続性が生まれ、交通容量が増加することから、(主)宇都宮鹿沼線との交差点渋滞が緩和され、通過時間の短縮が図られる。
- 道路拡幅により、災害発生時において緊急車両の円滑な通行が確保されるとともに、産業活動の活性化への寄与が期待される。



千渡交差点渋滞状況 ①



南側交差点渋滞状況 ②



Ⅰ　事業の概要

【事業内容】

【事業概要】

・仁神堂町交差点から千渡地内を結ぶ主要幹線道路を４車線化する計画である。

①　総延長　　：2,100m
②　計画交通量：17,100台／日
③　道路区分　：第３種第２級
④　車線数　　：４車線
⑤　標準幅員　：25.0m
　※車道3.25m×４
　　路肩1.5m×２
　　歩道3.0m×２
　　中央分離帯3.0m

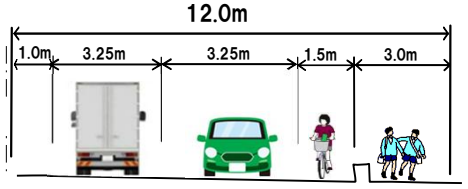
【事業見込額】

総事業費　約27億円

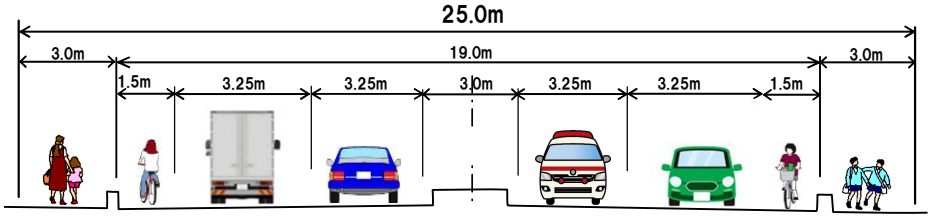
【目標事業期間】

約10年間

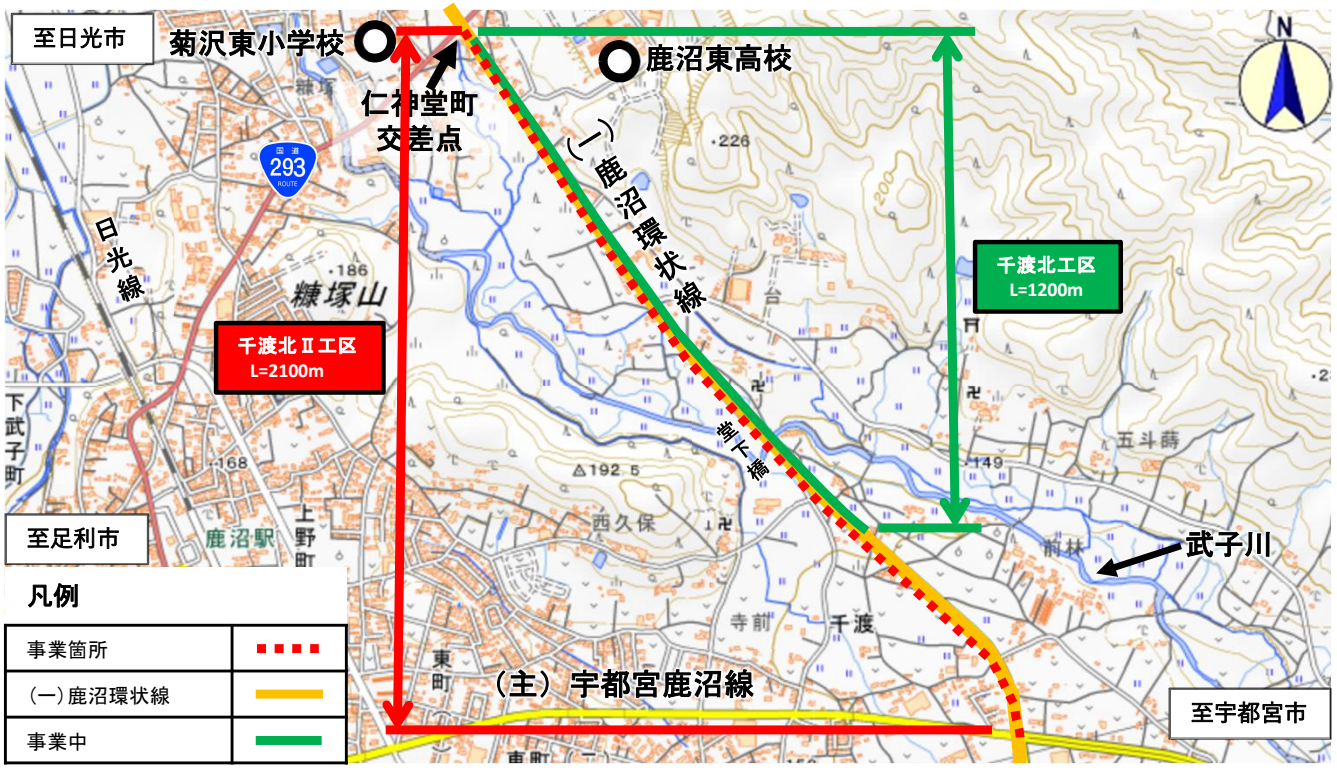
【現況横断図】



【計画横断図】



【平面図】



出典：国土地理院ウェブサイト
（https://maps.gsi.go.jp/）
地理院タイルに事業箇所等を追記して作成

Ⅱ 事業の評価

【評価の視点】

１事業の適時性

- 地元との合意や占用事業者などの関係機関との協議が整うなど、事業熟度が高まったことから、令和９年度から事業に着手する。

２ 事業の適地性

- ルート等は、宇都宮都市計画道路として決定された計画である。
- 一部、４車線化に必要な本線の用地を取得しているため、本計画が最適である。

３事業手法の適切性（県が事業主体となる理由等）

- 県道鹿沼環状線の現道拡幅として４車線化の整備を行うものであり、道路管理者として、県が事業を実施する。

４事業コスト縮減等の可能性

- 再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。
- ライフサイクルコストの観点から、防草対策を行うことで、維持管理費用の縮減を図る。

【事業の投資効果】

１ 費用対効果分析結果

費用便益費（B/C）	総便益（B）※1	総費用（C）※2
３．０	62億円	20億円

※1 総便益(B)：供用後50年間の効果を金銭に換算したもの
- 走行時間短縮便益（57.4億円）
- 走行経費減少便益（2.2億円）
- 交通事故減少便益（2.0億円）の合計

※2 総費用(C)：建設費と供用後50年間の維持管理費を含む

※1,2はいずれも、各年次の社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したものであり、費用便益分析マニュアル（国土交通省 道路局 都市局）に基づき算出

【事業の対応方針（案）】

本事業については、令和９年度より着手する。